

慢性疼痛というもの

東邦大学医学部 麻酔科学第二講座

村山良介

要旨： 慢性疼痛とは、その定義は疼痛が長く続くという臨床的な判断に基づくものであるから、全体像はなかなかつかみにくいものである。

そこで、今まで行ってきた研究を振り返り、その実体、診断、治療について判断の素材を提供する。

疼痛の生体での仕組みは非常に複雑なものであるから、視点を変えて、熱力学的な考え方を導入してみた。これによると、急性疼痛も慢性疼痛も疼痛として同じであると考えられ、慢性疼痛は修復する正のエネルギーの不足から起るものとして、理解されやすい説明のつくものになる。

漢方薬はこの考え方によれば、局所に不足している正のエネルギーを得るために、必要な触媒様物質を与えることが出来る大切なものであり、慢性疼痛の治療に有効なものである。

索引用語： 慢性疼痛、心因反応、疼痛認知機構、言語、疼痛分類、熱力学、エネルギー